

つどい

第18号

発行日：令和7年5月

こんにちは！野木町交流センター「野木ホフマン館」です。
今回の「つどい第18号」でお届けするのは、概ね次のとおりです。

- 野木ホフマン館の近況と事業
- 野木町煉瓦窯のおはなしその⑱
- 自然豊かな渡良瀬遊水地その⑰

【野木ホフマン館の近況と事業】

野木ホフマン館のメタセコイア並木も新緑があざやかになり、来館者も増えることが予想されます。煉瓦窯とメタセコイア並木のフォトスポット、バラ、アジサイ、多くの草花等も咲き誇り、毎年、来館者を魅了しています。そんな中、5月10日（土）、11日（日）には「野木町煉瓦窯春フェスタ」が開催されます。「煉瓦窯見学無料・各種ワークショップ・模擬店等」を企画しています。

ご来館をお待ちしております。

【令和7年度各種講座・教室】

下記のとおり、各種講座・教室等を企画しています。皆様のお申し込みをお待ちしています。詳細は、町広報紙をご覧ください。

なお、ご希望の講座・教室等が定員に達している場合にはご了承ください。

- ◆陶芸教室・・・食器や花器などを自由に制作しながら陶芸の基礎を学びます。
- ◆歴史体験講座・・・野木町に関わる歴史などのお話や体験講座を行います。
- ◆バラとアジサイを愛でる講座・・・バラ・アジサイの育て方、剪定の仕方などの基礎を学びます。
- ◆渡良瀬遊水地に関する講座・・・植物観察会、野鳥観察会、釣り講座

※他にも多様な講座を計画していますので当該町広報紙「野木ホフマン館」コーナーをご覧ください。

野木町煉瓦窯のおはなし その⑱

煉瓦だけをそのまま積み上げただけではすぐ崩れてしまうので、煉瓦造ではふつう「目地(めじ)」で煉瓦どうしをくっつけながら積みます。目地は煉瓦に使う接着剤のようなもので、煉瓦に目地を塗ってから積んだり、積んだ煉瓦の隙間に目地を詰めたりして、煉瓦積みを固定するのです。

赤煉瓦(普通煉瓦)の目地には、砂と固化剤(固まる素材)を水で練った「モルタル」が使われます。

モルタル = 固化剤 + 砂 + 水

※固化剤 = セメント、石灰など固まる素材

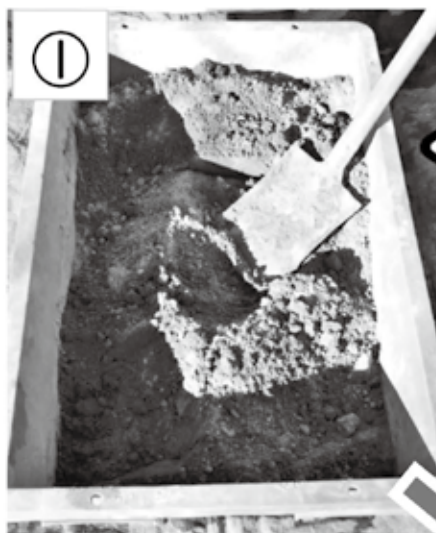
石灰モルタル = 石灰 + 砂 + 水

セメントモルタル = セメント + 砂 + 水

※ セメント = 石灰石・粘土・その他原料を砕いて焼き、石膏(せっこう)を混ぜて粉にしたもの

日本で煉瓦が使われ始めた明治時代初期には、モルタルの固化剤として石灰を用いる「石灰モルタル」が多く利用されました。建築当初の野木町煉瓦窯に使われていた目地も石灰モルタルです。もともと日本で使われていた漆喰は石灰を材料にしていたので、材料を手に入れやすかったこと、当時のセメントの多くは輸入品で高価だったことなどが理由です。セメントモルタルを使う場合でも、セメントの量は少なめにされていました。

その後、コンクリート工法の導入と利用の増加に伴い国産セメントの製造も増え、煉瓦造の建物が多く壊れた濃尾地震(明治24年)をきっかけに、石灰モルタルよりも丈夫な「セメントモルタル」を目地に使うようになっていきます。現在、単に「モルタル」といえばおおよそ「セメントモルタル」のことをさします。(つづく)



①

セメントモルタルを使うときには、
セメントと砂をよく混ぜ合わせてから、
水を加えて練る



②

コテでモルタルを塗りながら
煉瓦を積む



③



④

煉瓦の並びがゆがまないよう、
モルタルの厚みを調節しながら
高さをそろえて積んでいく



自然豊かな渡良瀬遊水地 その⑪

水害常習地 谷中村

谷中村が歴史上に出てくるのは、足尾銅山鉍毒問題や田中正蔵に伴ってからであります。一般的に谷中村そのものの歴史はあまり知られていません。

谷中村は水郷の村であり、漁業が盛んで、肥沃な土地からは3年に1度の割合で米がとれれば生活できたと言われています。しかし、谷中村は水郷の村といっても、畑が田より圧倒的に多い地域であります。江戸時代、新田開発によってできた谷中村は、度重なる洪水によって、米の収穫量は少なく、村人は大豆と副業の漁業・菅笠等を頼りに生活していました。村鑑帳（村勢要覧）の中で、谷中8か村だけが「不定地ニ御座候」とされていました。反面、舟運に恵まれ地の利を活かし、船渡場として商品貨幣経済には優れたものを持っていました。明治時代に入り、谷中村では毎年のように堤防改築工事を行い輪中堤を築きあげていき、一時期農業が再興しているが、その頃、足尾銅山鉍毒の被害と堤内地買収を受け、明治39年に廃村となりました。

谷中の地は、渡良瀬川流域と巴波川流域に分かれ、それぞれ文化圏も少し違っていたと思われ、更に、谷中村自身が完全な輪中堤を築かない限り、常に遊水地的性格を有し、それによって起こる洪水の被害は関東構造盆地に位置するためであったと思われます。

※「不定地」とは水害などで一定の収穫を得られず、年貢高が定められていなかった土地を言う。

参考文献

「渡良瀬遊水地の時」より

渡良瀬遊水地の近況

渡良瀬遊水地の春の風物詩「ヨシ焼」が3月1日（土）に行われました。ヨシ焼後の遊水地の黒くなった大地には、日差しがたっぷりそそぎ、植物たちが一斉に芽吹き始めます。植物の成長を観察してみませんか。

野木町交流センター

（野木ホフマン館）

開館日：火曜日～日曜日

9：00～18：00

（国民の祝日開館、翌平日閉館）

〒329-0114

野木町大字野木3324-10

☎ 0280-33-6667